

Express5800/R120j-1M, R120j-2M ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品のご使用において、ご注意いただくことがあります。誠におそれ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。
なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

- 1) はじめに
- 2) 装置起動時に関する注意事項
- 3) システム ROM の機能に関する注意事項
- 4) iLO 6 の機能に関する注意事項
- 5) OS に関する注意事項
- 6) 全般の機能に関する注意事項

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、以下の Web サイトに掲載しているマニュアルに記載しています。

<https://www.support.nec.co.jp/>

「NEC サポートポータル内検索」より、以下の ID で検索してください。

R120j-1M : 3170102818

R120j-2M : 3170102819

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)/エクスプレス通報サービス(MG)に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト<<https://jpn.nec.com/esmsm/>>

NEC サポートポータル <<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>>

の最新の情報およびバージョンをご確認のうえ、ご利用ください。

● Starter Pack について

本製品で使用する Starter Pack は、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。

Web サイトに掲載されている内容を確認し、バージョン S8.10-011.01 以上を適用してください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「S8.10-011」を検索)

● VMware ESXi のドライバ・サービスモジュールについて

本製品で使用する VMware ESXi のドライバ・サービスモジュールは、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。

Web サイトに掲載されている内容を確認し、適切なバージョンを適用してください。

- (1) Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「Agentless Management Service」を検索し、【最新版】と表示される「iLO 6 FW X.XX 以上専用 Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver (VMware ESXi X.X 版)」を適用してください)(X は数字)

- (2) WBEM プロバイダ(not applicable)および CLI ツール

<https://www.support.nec.co.jp/>

「NEC サポートポータル内検索」機能を使用して、「WBEM プロバイダ」を検索してください。次に、以下のいずれかのバージョンを選択して適用してください。

- ・「【最新版】WBEM プロバイダ(not applicable)および CLI ツール(VMware ESXi 7.0 版)」
- ・「【最新版】WBEM プロバイダ(not applicable)および CLI ツール(VMware ESXi 8.0 版)」
- ・「【最新版】WBEM プロバイダ(not applicable)および CLI ツール(VMware ESXi 9.0 版)」

(3) VMware ESXi デバイスドライバ

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140105866>

(「PC サーバ/ブレードサーバ(Express5800 シリーズ)」から対象 OS の「デバイスドライバー一覧」を選択)

● 本製品の保守作業時間に関して

本製品は、障害発生時等に伴う保守作業に際し、保守部材と搭載ファームウェア、ドライバの組み合わせによっては、保守作業に時間を要することがあります。

2) 装置起動時に発生する事象について

● 「Memory Initialization - Start」のメッセージで POST 停止した場合の対処について

本体装置の電源投入後、「Memory Initialization - Start」のメッセージで、まれに POST 停止することがあります。

本現象発生時は、以下の手順で復旧してください。

- ① 本体前面の電源スイッチ(または、iLO の Web インターフェイスにある Power アイコン)を 4 秒以上長押しして、本体装置の電源をオフにします。
- ② 本体前面の電源スイッチ(または、iLO の Web インターフェイスにある Power アイコン)を押して、本体装置の電源をオンにした後、正常に起動する事を確認してください。

現象発生時の POST メッセージ

```
NEC Express5800 System BIOS UXX vY.ZZ (mm/dd/yyyy)
Early system initialization, please wait...
System Chipset initialization
UPI Link initialization - Start
UPI Link initialization - Complete
Early Processor initialization
Memory initialization - Start
```

3) システム ROM の機能に関する注意事項

● Intel(R) Quick Assist Technology について

以下の CPU を搭載したシステムにおいて、特定のバージョンのシステム ROM を使用している場合、CPU2 側の Quick Assist Technology 機能は利用できません。

N8101-1851	CPU ボード(32C/2.80GHz/Platinum 8462Y+)
N8101-1842	CPU ボード(8C/2.90GHz/Gold 5415+)
N8101-1844	CPU ボード(28C/2GHz/Gold 5420+)
N8101-1841	CPU ボード(20C/2GHz/Silver 4416+)

該当するシステム ROM のバージョンは、v1.32 (03/23/2023) または v1.46 (09/26/2023) です。

Quick Assist Technology 機能を利用するためには、システム ROM を v2.16 (03/01/2024) 以降にアップデートする必要があります。

● Boot Order Policy オプションについての注意事項

「Boot Order Policy」オプション(*)は、「Reset After Failed Boot Attempt」に設定してください。本設定により、Boot Order のリストにあるすべてのブートデバイスでブートに失敗した(ブートデバイスが初期化に時間がかかるなど)場合、システムの再起動を行います。システムの再起動により、ブート処理を再実行することで OS ブートに成功することがあります。

2023 年 8 月より、「Boot Order Policy」オプションの工場出荷時設定は[Retry Boot Order Indefinitely]から[Reset After Failed Boot Attempt]に変更されました。

(*)BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > Boot Order Policy

● UEFI Boot Order Control の注意事項

システム ROM バージョン 2.32 の場合、UEFI Boot Order Control メニュー(*1)で新たなブートデバイスの有効化、または無効化の設定や保存ができません。

詳細は以下の Web サイトをご確認ください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140109992>

ブートデバイスの起動優先順位を変更する際は、UEFI Boot Order メニュー(*2)にて行ってください。

また、UEFI Boot Order メニューまたは UEFI Boot Order Control メニューに移動するたびに、画面下段にある“Changes Pending”文字列の前に赤い◎が表示されます。

必要に応じて F10 キーを押下し、設定の保存を行ってください。

(*1)BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > UEFI Boot Order Control

(*2)BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > UEFI Boot Order

システム ROM バージョン 2.44 では、この問題が修正されていますので、アップデートを推奨します。

● 工場出荷時の設定について

2024 年 7 月 8 日出荷装置より、下記項目の出荷時設定を変更しています。

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Processor Options > Processor x2APIC Support : 【Auto】 → 【Force Enabled】

本設定により、高コア数の CPU をご使用時に、オペレーティングシステムをより効率的に実行できるようになります。

2024 年 7 月 8 日より前に本機を購入されたお客様は、上記設定に変更してください。

● PCIe Slot の Link Speed 設定について

下記の PCIe Slot について PCIe Link Speed (*1)を変更しても Link Speed に反映されません。常に最大 Link Speed で動作します。

R120j-1M : PCIe Slot 3

R120j-2M : PCIe Slot 4/5/6

(*1) PCIe Link Speed 設定メニュー

BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration > PCIe Slot X : “Device 名” > PCIe Link Speed : 【Auto】 / PCIe Generation 1.0 / PCIe Generation 2.0 / PCIe Generation 3.0

PCIe Slot X : R120j-1M は PCIe Slot 3、R120j-2M は PCIe Slot 4/5/6

“Device 名” : 実装される PCIe Device によって表示が変わります。

PCIe Link Speed : デフォルト設定は [Auto] です。設定変更は行わないでください。

実装される PCIe Device によって、選択可能な PCIe Generation 1.0/2.0/3.0 は変わります。

将来のシステム ROM で修正される予定です。

● システム ROM バージョン 1.44 へのアップデートにともなう注意事項

システム ROM バージョン 1.32 から、バージョン 1.44 へアップデート後の装置再起動時にファンが高速回転する場合があります。

以下のメニューから RBSU の初期化を実施してください。

「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Default Options > Restore Default Manufacturing Settings」 : [Yes, restore the default settings]

なお、RBSU の初期化後は、お客様が変更した RBSU 設定を再度設定する必要があります。

詳細はシステム ROM バージョン 1.44 のアップデート手順 (README) をご確認ください。

●View IMLに関する注意事項

次の条件を満たしたシステムにおいて、システムユーティリティの View IML 機能(*1)は使用しないでください。

- ・ システム ROM バージョン 2.16 (03/01/2024)未満

かつ

- ・ RAID コントローラ (N8103-243/245) を搭載 (Firmware Version 5.61)

上記条件を満たした状態で View IML 機能を使用すると、RSoD (Red Screen of Death)が発生します。

そのため、IML ログを表示する場合は、iLO Web インターフェイス(*2)を使用してください。

なお、RSoD が発生した場合には、システムの復旧のために電源を Off/On する必要があります。

(*1) System Utilities > Embedded Applications > Integrated Management Log (IML)

(*2) iLO Web インターフェイス : [Information] - [Integrated Management Log]

4) iLO 6 の機能に関する注意事項

● iL0 の再起動を行う場合の注意事項

以下に示すタイミングにおいては、iL0 の再起動を行わないでください。

- ・サーバー起動から OS の起動完了までの間 (POST 実行中も含む)。
- ・システムユーティリティの操作途中。

該当タイミングで iL0 の再起動を行うと、予期しない動作を引き起こす可能性があります。

例えば、POST 実行中に iLO の再起動を行うと、iLO Web インターフェイス: [Information] - [Overview] ページにおける UUID、UUID(論理)の表示が不正な値となる場合があります。また、システムユーティリティの設定変更など操作の途中で iLO の再起動(※)を行うと、直後のシステム再起動処理(Reboot)が正常に実行されない場合や、本体装置に記録されている Serial Number、Product ID などの設定情報が消失してしまう場合があります。もし、上記のような不正な表示や動作が発生した場合は、本体装置の電源をオフにし、再度オンにしてください。

もし、上記のような不正な表示や動作が発生した場合は、本体装置の電源をオフにし、再度オンにしてください。

＜対象となる iL0 の再起動の方法＞

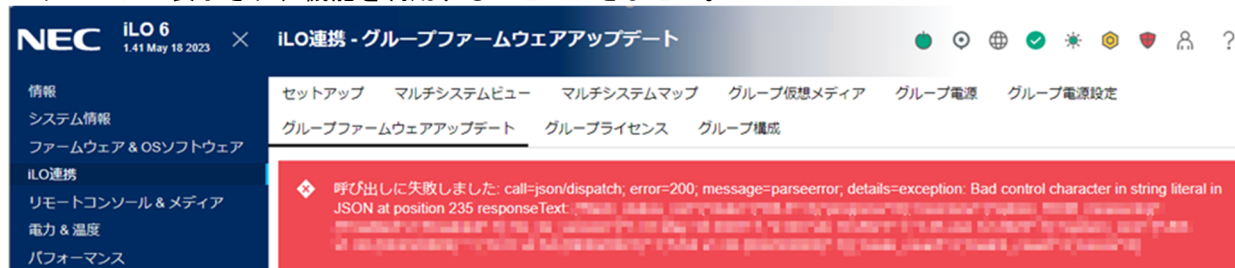
- ・ iLO Web インターフェイスなどを利用したネットワーク経由での iLO の再起動。
- ・ UID スイッチを使用した iLO の再起動。

※ システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後の iLO の再起動については、本書の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。

● iL0 連携グループ ファームウェア アップデート機能について

本機能を使用する場合は、iLO 6 ファームウェアバージョン 1.52 以降であることを確認してください。

iLO 6 ファームウェアバージョン 1.30、または、1.41 の環境において、iLO Web インターフェイスの[iLO 連携]-[グループファームウェアアップデート]ページを開いたとき、以下のような「呼び出しに失敗しました」というメッセージが表示され、機能を利用することができません。




※ 表示されるエラー内容は、将来、変更される可能性があります。

● iL0 のダウングレードポリシー機能の注意事項

iL0 の拡張ライセンスがインストールされている場合、[Security] - [Access Settings] - [Update Service] - [Downgrade Policy] の設定を『Permanently disallow downgrades』に変更しないでください。

『Permanently disallow downgrades』に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができません。また、本設定は一度設定を行うと永続的に保持されるため、Set to factory defaults オプションから iLO を出荷時のデフォルト設定にリセットを行ったり、その他の iLO の各種インターフェイスや各種ユーティリティから本設定を行おうとしても、『Permanently disallow downgrades』設定は維持されます。

● iLO Web インターフェイスのセキュリティアイコンに関する注意事項

iLO Web インターフェイスの[Information] - [Security Dashboard]および iLO Web インターフェイス画面の右上部に  リスクが表示される場合があります。

RBSU の設定や iLO の設定の内容によって、iLO セキュリティの状態がリスク状態(赤色)で表示されますので、お客様のセキュリティポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iLO 6 ユーザーズガイドを参照してください。

ただし、『Require Host Authentication』設定については、本書内の「**インターフェイスの、[ホスト認証が必要]設定における注意事項**」に記載がありますので、ご確認ください。

iLO の負荷の状態により[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が『リスク』であっても、iLO Web インターフェイス画面の右上部の”iLO セキュリティ”アイコンが無色になる場合があります。

[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が現在のセキュリティ状態を示します。

● iLO の時刻設定について

iLO の時刻設定については、適切な時刻補正を行うために、iLO Web インターフェイスにて SNTP の設定を行い、NTP サーバを利用した定期的な時刻の自動補正が行える状態でご使用いただくことを推奨します。

iLO の SNTP の設定方法については、iLO 6 ユーザーズガイドを参照してください。

● iLO Web インターフェイスの[ホスト認証が必要]設定における注意事項

[Security] - [Access Setting] - [iLO]にある[ホスト認証が必要/Require Host Authentication]を『有効』に設定しないでください。

『有効』に設定を行った場合、次に示す状況が発生します。

- ・ ESMPRO/ServerManager のアラートビューアに、“Remote Insight/Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出”のメッセージが多数表示されます。
- ・ Starter Pack (Standard Program Package)を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能をご利用頂けません。

- ・ エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- ・ RAID 通報サービス
- ・ サーバ診断カルテのハードウェア診断機能
- ・ iLO が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、およびイベントログ採取機能

NIST SP800-193 運用環境を構築される場合は、以下の URL に掲載された運用手引きを参照し、OS 環境構築後、『有効』に設定するようにしてください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=3140109677>

参考資料：NEC Express5800 /NX7700x シリーズ NIST SP 800-193 準拠 運用構築手引き

● ネットワークブリッジ構成時の iLO Web インターフェイスのネットワーク情報の表示について

ネットワークをブリッジ設定で構成してご使用の場合、iLO Web インターフェイスの[Information] - [Network] - [Physical Network Adapters]に表示される内容が OS 上の内容と一致しない場合があります。ブリッジ情報の詳細は、OS 上のネットワークアダプターのプロパティにてご確認ください。

● RESTful API ERROR が発生した場合の対処について

POST 実行中、稀に RESTful API Error が発生し、Integrated Management Log (IML)に記録されることがあります。本イベントが記録された場合、各種監視ソフトウェア(※)からの iLO へのアクセスが正しく行えないことがあるため、iLO の再起動を実施してください。

※ ESMPRO/ServerAgentSrvce、RAID 通報サービス、サーバ診断カルテ、装置情報収集ユーティリティ

● iLO Web インターフェイスの Agentless Management Service (AMS) のステータスについて

iLO Web インターフェイスの[System Information] - [Summary] - [Subsystem and Devices]の Agentless Management Service (AMS) のステータスにおいて、不明(または利用不可能)※と表示された場合、iLO リセットを行ってください。またその後 10 分程度経過した後、以下の Agentless Management Service (AMS) の再起動方法の対象 OS を参考に、Agentless Management Service (AMS) を再起動してください。

< Agentless Management Service (AMS) の再起動方法 >

・ Windows の場合

Windows の管理ツール → サービス → “Agentless Management Service”を右クリックし、再起動してください。

・ Red Hat Enterprise Linux 8.x/9.x の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# systemctl restart smad
# systemctl restart amsd
```

・ ESXi7.0/8.0/9.0 の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amsv restart
```

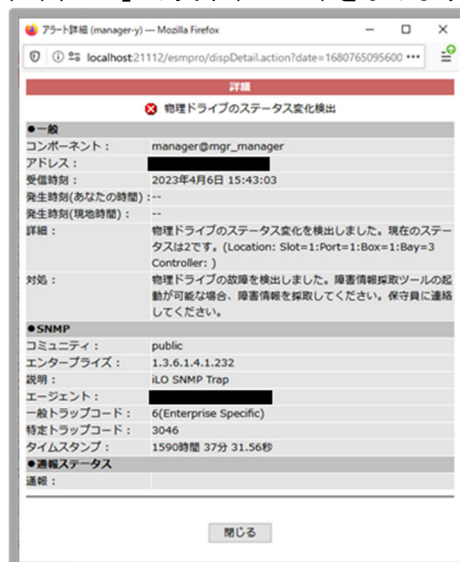
※ Agentless Management Service (AMS) のステータスが不明(または利用不可能)の状態の場合、iLO Web インターフェイスの[System Information] - [Storage]や[Network]の一部の情報が取得できず、正しく表示されません。

● 物理ドライブの通報に関する注意事項

論理ドライブを構成した環境で物理ドライブを取り外した際、物理ドライブ故障のエクспレス通報が通知されません。

また、ESMPRO/ServerManager アラートビューアにおいて「物理ドライブのステータス変更検出」が通知されますが、仕様変更に伴い詳細欄のステータス値が「3」ではなく、「2」が表示されます。

※ステータス値の「2」は正常(OK)、「3」は異常(Failed)を示します。



● iLO 6 バージョン 1.41 以下におけるリストアの操作についての注意事項

iLO 6 バージョン 1.41 以下が適用された環境で、iLO Web インターフェイス : [Lifecycle Management] - [Backup & Restore] ページにおいて、iLO 6 バージョン 1.41 以下でバックアップしたファイルを用いてリストアを行うと、「ファイルが正常にアップロードされませんでした。後でもう一度試してください。」のエラーメッセージが表示されます。

iLO 6 バージョン 1.41 以下でバックアップしたファイルを用いてリストアする場合は、事前に iLO 6 バージョン 1.52 以降のファームウェアにアップデートし、アップデート後にリストア操作を行ってください。

● オンボードの RAID コントローラ (Intel (R) Virtual RAID on CPU (VROC)) の SATA RAID 表示に関する注意事項

iLO 6 ファームウェアバージョン 1.59 以降をご使用の場合:

オンボードの RAID コントローラ (Intel (R) Virtual RAID on CPU (VROC)) の SATA RAID 構成時、iLO Web インターフェイスの [System Information] - [Storage] の表示が以下ようになります。

- ・ [Storage Summary] の [Volumes] において、[Count] が "0"、[Health Summary] が "利用不可" と表示される。
- ・ [Storage Controllers] において、SATA RAID 構成のストレージコントローラを選択すると、「Unconfigured - Drives」と表示される。

VROC の SATA RAID 構成時のドライブ情報を参照する場合には、OS 上の Intel VROC GUI または Intel VROC CLI を使用してください。

詳細は、「Intel (R) Virtual RAID on CPU ユーティリティ VROC8/VROC9 ユーザーガイド」を参照してください。

● RAID コントローラ (SR) 構成時の RESTful API での RAID コントローラ情報に関する注意事項

iLO 6 ファームウェアバージョン 1.64 以降をご使用の場合:

下記の RAID コントローラ (SR) に特定のファームウェアが適用されている場合、iLO RESTful API で下記の Redfish リソース情報を取得すると、返却される JSON データ中の PCIeFunctions 配列内の @odata.id に正しいリンク情報が表示されずエラーを示す "F0" が表示され、RAID コントローラに関する PCI 機能の参照ができません。

RAID コントローラの PCI 機能を確認したい場合は、Smart Storage Administrator から PCI 機能を参照してください。

■ 対象 RAID カードおよび RAID ファームウェアバージョン

N8103-243 RAID コントローラ (SR, 2GB, RAID 0/1/5/6, OCP) : RAID ファームウェアバージョン 7.11

N8103-244 RAID コントローラ (SR, 8GB, RAID 0/1/5/6, OCP) :

RAID ファームウェアバージョン 03.01.30.106

N8103-245 RAID コントローラ (SR, 2GB, RAID 0/1/5/6, PCI) : RAID ファームウェアバージョン 7.11

N8103-246 RAID コントローラ (SR, 8GB, RAID 0/1/5/6, PCI) :

RAID ファームウェアバージョン 03.01.30.106

■ 対象 Redfish リソース

/redfish/v1/systems/1/storage/{controller ID}/controllers/0

■ 返却される JSON データ (該当箇所)

```
"PCIeFunctions": [  
  {  
    "@odata.id": "F0"  
  }  
],
```


● 仮想シリアルコンソールに関する注意事項

iLO 6 ファームウェアバージョン 1.64 以降をご使用の場合:

仮想シリアルポートログ over CLI 設定を有効にした後、SMASH-CLP からテキストベースの仮想シリアルコンソールを起動しても何も表示されません。

■ 仮想シリアルコンソール起動コマンド

vsp または `start /system1/oemNEC_vsp1`

仮想シリアルポートログ over CLI を無効から有効に設定変更後、仮想シリアルコンソールに何も表示されなくなった場合、BMC 構成ユーティリティより[工場出荷時のデフォルトにセット]を実施してください。

5) OS に関する注意事項

● Windows Server (R) OS ご使用時の注意事項

32 コア (物理コア) を超えるプロセッサを搭載している場合、Windows Server (R) 2019 でシステム情報 (Msinfo32.exe) ツールとタスクマネージャーの[パフォーマンス]タブに、プロセッサのソケット数やコア数、L1 キャッシュと L2 キャッシュのサイズが正しく表示されません。
詳細は、下記のリンクを参照してください。

Windows Server (R) 2019 サポート情報

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140106598>

iLO Web インターフェイスまたは System Utilities では正しい CPU 情報が確認できます。

● RAID 監視通報方式について

VMware ESXi において、RAID 監視通報は SNMP Trap をご利用ください
詳細は、下記の Web サイトをご確認ください。

・ NEC サポートポータル

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140108419>

● Linux OS を使用する場合の注意事項

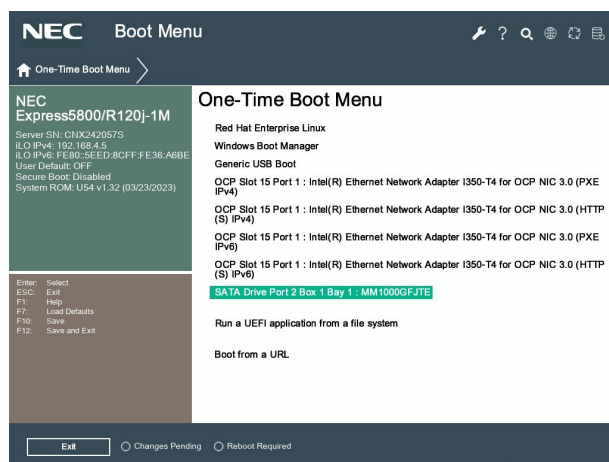
OS が自動的に認識する LOM やオプション NIC のデバイス名を使用してください。独自 udev ルールを追加する際、PCI アドレスを基準に NIC デバイス名を変更したり、固定したりする設定は行わないでください。
また、PCI アドレスを含む /dev/disk/by-path/ 配下のストレージデバイス名は使用しないでください。

PCI アドレスを基準にしたデバイス名を使った運用が必要な場合は、PCI スロットへのカード増設/抜去および CPU 構成変更を行わないでください。PCI バスのアドレス情報が変化し、PCI 接続のデバイス名に影響がでることにより、ネットワークやストレージへのアクセスができなくなり、システムが正常に起動できなくなる場合があります。

● Red Hat (R) Enterprise Linux (R) を使用する場合の注意事項

ワンタイムブートメニューから起動する場合、OS ブートマネージャー (例: Red Hat Enterprise Linux) を選択してください。

OS がインストールされた HDD や SSD などのブートデバイスを選択したとしても OS がブートしない場合があります。



ワンタイムブートメニュー画面

● Red Hat(R) Enterprise Linux(R) (x86_64) 起動時の syslog に PCI 関係のメッセージが記録される

Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 8 (x86_64)と起動時の syslog に PCI 関係のメッセージが記録される場合があります。

```
kernel: pcieport 0000:00:0c.0: can't derive routing for PCI INT A
kernel: pcieport 0000:00:0c.0: PCI INT A: not connected
kernel: pcieport 0000:00:0f.0: can't derive routing for PCI INT A
kernel: pcieport 0000:00:0f.0: PCI INT A: not connected
kernel: pcieport 0000:00:10.0: can't derive routing for PCI INT A
kernel: pcieport 0000:00:10.0: PCI INT A: not connected
```

PCI-Express からの割り込み処理の割り当てができない事を示すメッセージです。
当該機種では、メッセージが示す PCI デバイスは未接続のものであり、動作に影響はありません。

● N8101-1841/1842/1844/1851/1853 CPU ボード搭載時の RHEL 環境での Intel Quick Assist Technology(QAT)についての注意事項

N8101-1841/1842/1844/1851/1853 CPU ボードを搭載した装置に RHEL をインストールすると、起動のたびに QAT の firmware の適用を促す下記のイベントがメッセージに登録されますが、無視してご使用ください。

例:

```
>Jan 4 15:04:47 localhost kernel: 4xxx 0000:e8:00.0: Direct firmware load for qat_4xxx_mmp.bin failed
with error -2
>Jan 4 15:04:47 localhost kernel: 4xxx 0000:e8:00.0: Failed to load MMP firmware qat_4xxx_mmp.bin
>Jan 4 15:04:47 localhost kernel: 4xxx 0000:e8:00.0: Failed to load acceleration FW
>Jan 4 15:04:47 localhost kernel: 4xxx 0000:e8:00.0: Resetting device qat_dev0
```

● VMware ESXi 7 または 8 をご使用時の注意事項

システム ROM バージョン 2.32 (09/09/2024) 未満の場合、hostd.log に以下のメッセージが記録されることがあります。

```
Skipping interrupt routing entry with bad device number: 176...
```

システム ROM バージョン 2.32 (09/09/2024) では、この問題が修正されていますので、アップデートを推奨します。

6) 全般の機能に関する注意事項

● N8104-208 10/25GBASE 接続 LOM カード(SFP+ 2ch) ご使用時の注意事項

N8104-208 10/25GBASE 接続 LOM カード(SFP+ 2ch)にて、Wake On LAN 機能を用いて本体装置の起動を行う場合、マジックパケットは本体装置をシャットダウンして、電源がオフの状態を受信するようにしてください。本体装置が稼働中にマジックパケットを受信した場合、その後本体装置がシャットダウンされ電源がオフに移行した後に、自動的に本体装置の電源がオンされてしまいます。

● N8103-184/E184 SAS コントローラご使用時の注意事項

N8103-184/E184 SAS コントローラを使用する場合、iLO Web インターフェイスの[System Information] - [Storage] - [Storage Controller]の Status が“不明(Unknown)”と表示される場合がありますが動作に影響はありません。

● N8103-248/249/250/251/252 RAID コントローラご使用時の注意事項

新規に N8103-248/249/250/251/252 RAID コントローラをご購入される場合、および Starter Pack(ver. S8.10-013.01 または S8.10-013.02)を適用された場合、RAID コントローラのファームウェアが「52.26.3-5379(*1)または 52.26.3-5487(*2)」となります。

本ファームウェアではアレイの拡張機能を使用しないでください。使用した場合、実行した処理が完了しない場合があります。アレイの拡張機能は実行するユーティリティによりメニューの名称が異なります。

System Utilities 上の名称 : Reconfigure Logical Drives

LSI Storage Authority 上の名称 : Modify Array

*1 : Starter Pack S8.10-013.01 に格納

*2 : Starter Pack S8.10-013.02 に格納

N8103-248/249/250/251/252 RAID コントローラ搭載済み装置のシステム ROM バージョン 2.32 (09/09/2024) 未満の場合、まれに論理ドライブ名が保存されないことがあります。

この現象が発生しても、サーバーの運用に影響はありません。発生した場合は、再度、論理ドライブ名の保存を実施してください。

システム ROM バージョン 2.32 (09/09/2024) では、この問題が修正されていますので、アップデートを推奨します。

● N8101-1858 1U 水冷ヒートシンクご使用時の注意事項

N8101-1858 1U 水冷ヒートシンクを搭載している場合、電源投入時に iLO Web インターフェイスに下記のようなイベントが Integrated Management Log (IML)に記録され、水冷ヒートシンクの Cooling Pump のステータスが一時的に OK から Critical となることがあります。起動後ステータスが OK となれば、正常に動作しているため無視してご使用ください。

例: "Critical", 0x0002, "Machine Environment" 0x003B, Liquid Cooling Module Failure (Pump CPU#, location System)"

または、

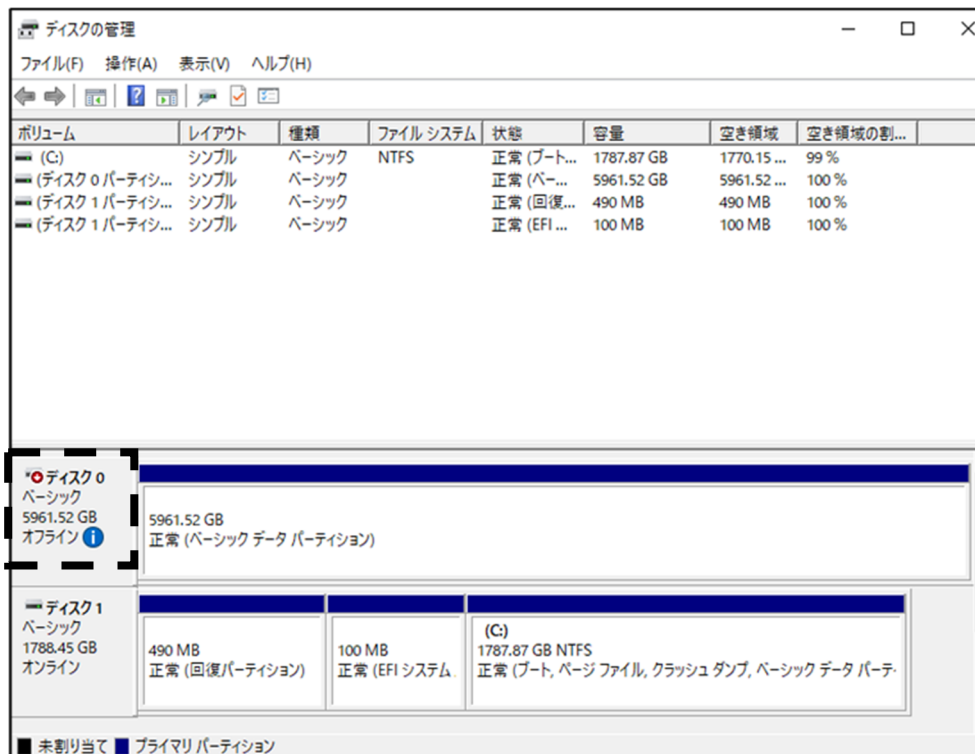
"Critical", 0x0002, "Machine Environment" 0x003B, Liquid Cooling module Failure (Pump #, Location System)"

● N8103-244/246 RAID コントローラご使用時の注意事項

- ・ システム ROM バージョン 2.32 (09/09/2024) 未満の場合、iLO Web インターフェイスの One-button セキュア消去レポートの位置 (Location) 情報が実際のドライブの搭載スロットと異なることがあります。One-button セキュア消去の動作は、正常に完了します。
消去結果は「成功」の表示でご確認ください。

システム ROM バージョン 2.32 (09/09/2024) では、この問題が修正されていますので、アップデートを推奨します。

- ・ Windows 環境でファームウェア「03.01.23.072」を用いた N8103-244 と N8103-246 の混在構成、もしくは N8103-246 を 2 枚搭載している構成の場合、起動時に OS がインストールされていないディスク (データディスク) がオフラインになる場合があります。データ消失などは発生しません。



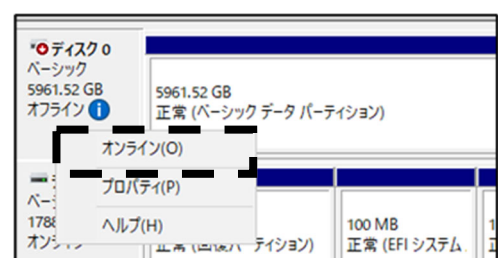
本事象はお使いの OS が Windows の場合でのみ発生します。

本事象が発生した場合は下記の手順を参考に「ディスクの管理」よりディスクをオンラインに変更してください。

[ディスクの管理からオンラインに変更する方法]



- ① オフラインになっているディスクの点線で囲った部分を右クリック



- ② オンラインをクリック

● オンボード SATA (AHCI モード)使用時の注意事項

オンボード SATA (AHCI モード)を使用する SATA HDD 構成でシステムクラッシュが発生した際、OS 自動再起動を設定しているにもかかわらず、まれに OS が再起動しない場合があります。その場合、iLO Web インターフェイスで電源ボタンをクリックし、プルダウンメニューの最下段の「リセット」をクリックすることにより OS が起動します。

● PCI カードの取り付けに関する注意事項

PCI カードを本装置に取り付ける際は、PCI スロットに差し込んだ後、PCI カード、またはライザーカードに付属のネジを用いてライザーカードに固定してください。

なお、工場出荷時に搭載されている PCI カードはネジで固定しています。

● 「Halted due to Security Protocol Data Model (SPDM) component authentication failure」というメッセージが表示された場合の注意事項

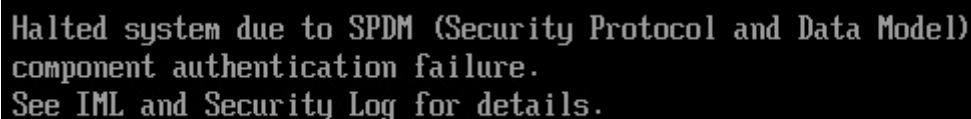
本装置の再起動を頻繁に実行した場合、「Halted due to Security Protocol Data Model (SPDM) component authentication failure」というエラーが発生して、OS が起動されないことや、電源投入時セルフテスト (POST) が完了されないことがあります。

この画面で停止した場合は以下のいずれかの方法で本装置を再起動してください。

- ・ iLO Web インターフェイスより [Power & Thermal] - [Server Power] - [Virtual Power Button] の [Press and Hold] をクリック後、[System Power] が [OFF] になっていることを確認し、[Virtual Power Button] の [Momentary Press] をクリックしてください。

もしくは

- ・ 本装置の POWER スイッチを 4 秒以上長押し後、POWER ランプ消灯を確認後に再度 POWER スイッチを押下してください。



Halted system due to SPDM (Security Protocol and Data Model)
component authentication failure.
See IML and Security Log for details.

● サーバ診断カルテについて

サーバ診断カルテは、対象製品の稼働状況を記録し、月ごとに稼働状態の診断カルテを提供するサービスです。サーバ診断カルテの詳細は、Starter Pack 内の「サーバ診断カルテ セットアップガイド」を参照してください。

サーバ診断カルテの最新の情報および注意事項、制限事項については下記の Web サイトをご確認ください。サーバ診断カルテは最新版を使用することを推奨します。

■ Windows 対応版

NEC サポートポータル (Windows 対応版)

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?&id=9010106809>

■ VMware ESXi 対応版

NEC サポートポータル (VMware ESXi 対応版)

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?&id=9010107805>

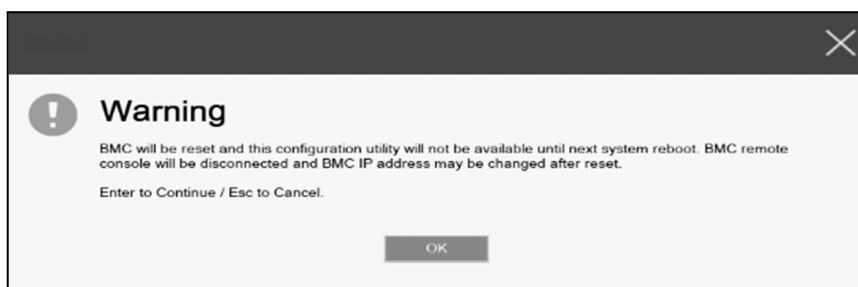
● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の①のポップアップが表示された場合は②以降の手順を厳守してください。

注意事項に従った操作を実施されない場合、「Memory Initialization Start」のメッセージで POST 停止、あるいは対象サーバーに記録されている Serial Number、Product ID などが消失することがあります。

Serial Number、Product ID などが消失した場合の復旧方法は、メンテナンスガイドの「5. トラブルシューティング 5.11 補足事項」の「Serial Number、Product ID が消失してしまった」の項目をご参照ください。

- ① システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLO の再起動を行うために、次の Warning(注意)ポップアップが表示されます。

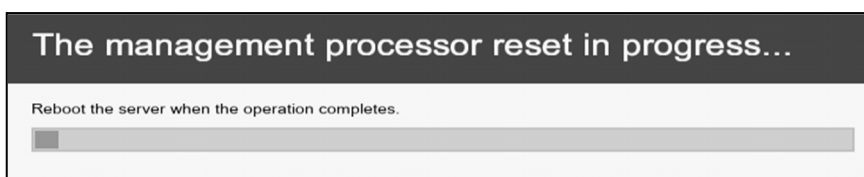


英語表示の場合



日本語表示の場合

- ② 「OK」を押して進めます。
- ③ iLO の再起動が開始され、次のプログレスバーが表示されます。
プログレスバーが表示されている状態で何も操作は行わず、必ず3分以上お待ちください。
もし、3分以内にプログレスバーが終了した場合においても、そのまま3分以上お待ちください。



英語表示の場合



日本語表示の場合

- ④ 3分以上経過後、以下を確認します。
 - A. 本体操作時
対象サーバー前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。
 - iLO が再起動中 : ステータスランプが緑色で点滅 (毎秒1回)
 - iLO の再起動が完了し正常動作 : ステータスランプが緑色で点灯
 - B. リモート (iLO Web インターフェイス) 操作時
対象サーバーにログイン画面が表示されていることを確認してください。

- ⑤ ④において、の再起動の完了を確認後、〈ESC〉キーを複数回押して、システムユーティリティ画面に戻ります。
- ⑥ システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して対象サーバーを再起動します。

■商標について

EXPRESSBUILDER、ESMPRO は日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft (R)、Windows (R)、Windows Server (R)、は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel (R)、Xeon (R) は米国 Intel Corporation の登録商標です。

Linux (R) は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Red Hat (R)、Red Hat Enterprise Linux (R) は米国 Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

VMware is a registered trademark or trademark of Broadcom in the United States and other countries. The term “Broadcom” refers to Broadcom Inc. and/or its subsidiaries.

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

■本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がありました場合は、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター

TEL : 0120-5800-72

受付時間 : 9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)

※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

NEC

2025 年 6 月 第 9 版



CBZ-057210-001-08